

# TRAIL-RUNNING FORUM 2016

## 報告5 DESSERT /参加者の声・午後

午後に行われた**テーマ別意見交換会**についての内容です。

A) 〈大会のルールって何だろう？〉

大会ガイドライン委員会

B) 〈魅力とリスクは紙一重〉

安全マナー委員会

C) 〈トレランは地域活性化に役立つのか？〉

地域コミュニケーション委員会

D) 〈トレラン報道のための基礎知識

広報・イメージアップ委員会

それぞれの会に参加された方々の意見、感想をまとめました。

### A) 〈大会のルールって何だろう？〉

#### 大会ガイドライン委員会

・大会のルールは必要だと思いました。理想は出場者が自らの走力とコース、天候を考えて選択できることがベストだが、必ずしもそうではない。特にロードからトレイルに参入する人が2/3の割合の場合、その判断ができるレベルになるまで時間が必要、大会運営側からすれば、リスクを少なくするのは当然のこと。走力によって必携品も変わってくる。

・ルール必携品は意見が分かれる所。失格・失格としないはもう少しグレーゾーンがあると思う。ルールにすることでめんどりがなくなるとは思います。

・失格はその場で誰かにもらってもいいのかとか、個人的にサポーターがいれば電話でなんとかできるとグレーゾーンです。重いからって男の人が言わないで。私のパックは5kgごえ！

・お互いにいい大会だったと思えるように必携品は必ず持ちたいと思います。ルールはルールで守っていきたいです。

・雷、熊、どうやったら死ぬか、非常に参考になりました。

・必携品はまだトレランの歴史が浅く、初心者やいろんな人が大会に参加している状況の中では教育的意味も含めて必要だと思います。ただし、ルールがあるから何も考えずに、それさえ持てば良いというようにルールありきが先行しすぎるといずれ見直しが必要とも考えます。ランナーが自分自身で考えること、日常の行動の中でマナーを考えていくように促すことが大事だと思いました。

・「ワラチ」ってどうなの？ 足は安全なの？

・ルール作りも大変だと思いました。でもルールは必要だと感じています。皆が楽しく走る為にも未来の為にもルールは作っていくべきです。

・主催者側、参加者側両方の視線があってとても興味深かったです。

(A、Cに参加) 特に大会関係者の参加が多く予想外！ 私も事務局をやっているので非常に参考になりました。感謝しています！

・大会の先導ランナーの導入・大会を知らずに山で大会に遭遇した時にハイカーさんの多くは迷惑に感じると思います。自転車ロードレースでは必ず先導車がレース通過前30～1時間前にレース通過を予告し、安全確保に効果があります。大会コース図や予定通過時刻パンフをわたしたりしてクレームを減らして欲しい。

・経験値の少ない自分にとっては大会ルールを守っていきたいと思っています。

・レースにもよりますが経験知識が少ない人が多くいるのでルールは厳しく設定し守らせるべきだと思います。

・No0018Aに参加しました。必須品について色々考えさせられました。他のテーマについても興味があります。

・トレランのルールマナー作りが大切であると共に個人的にもマナーを守って行きたいと思いました。

・ただ「走る」ことだけではなく大切なことがあるんだと言う事を改めて知ることができてよかったです。基本的なこと、きちんと学ぶべきですね。

・昨年よりトレイルランニングを始めました。今後競技場ルールを作って行く上でトレランをスタートする際の入口となるシューズ、ウエアを提供するメーカーとの連携も重要になるのではないかと思います。

・必需品の事前、レース中のチェックはもっと簡単にできるはず。事前のチェックに写真を撮る→レース中のチェックは写真からランダムチェック。

・ルール必携装備品についての議論、主催者としてルール化は必須、一元化してほしい。

・アウトプットをもう少し明確にすべきと感じた。テーマは良いが、内容、ストーリーがやや散文的。個人的には協会として「必携品」と「推奨品」の言葉の定義を明確にした方が良いと思う。必携＝チェック有、推しよう＝チェックなし。

・競技場ではなくフィールドで行うスポーツであるということを選手が自覚し、大会主催者は周知し、団体は広報啓発していことが大事です。

・黎明期にあるトレランというスポーツにおいて、ルールの厳格化、標準化というのは大きなテーマと考えます。登山のルールを一般に広げるといふ気持を持って「山のルール」＝「トレランのルール」という所までいけるような活動が必要かと考えております。

・必携品はないにこしたことは無いが設けたのであればチェックをし、失格も有って良いと思う。

・必携装備についてはトレイルランニングを競技として確立する以上は安全性を確保する必要があるので厳密に行うべきだと思います。自己責任という声もありますが、それは自分一人でトレランをすればいいのであって、競技や大会として走る以上はルール化しておくべきです。

・どんなスポーツにも競技規則やルールがあって平等にスタートラインに立つものだと思うので、トレイルランニングにも必携品が必要ならそのチェックも必要。(マンパワーの問題もあるが) また環境に配慮するとなるとマイカップの持参は今後必須にしてごみを出さないようにすることも必要だと思う。山岳保険も必須条件にしないとケガをした時の主催者、本人のリスクは大きい。

・生きて帰るため、生きて帰すために必携品ルールはマストだと思います。マラソンの延長と考えているビギナーも少なくないと思います。競技人口が増えていく中で、ルール般化は競技の存続に関わります。

・トレイルを初心者の方に教えたりする際に共通するルールがないので人それぞれになることが多いと感じます。ロードとは違うと思うので誰でも見なれた場所などでルールなどを教えて戴きたい。

・UTMBのポイントになる公認レース等は必携品チェックを必ず行うなど業界全体でルール化したりレギュレーションを分けるなど工夫を

・トレイルランレースは、必携品・装置も含めてのレースだと思います。持ち物は自分の生命を守るためであるので、自分で決めるのではないかと

・必携品はこの競技に参加する為の最低条件、前提条件。この競技が成熟していけば、この必携品という考えも払拭されていくと思う。今の状況では必要なこと。またこれがあることで考えるキッカケにもなり、自己責任をより参加者が認識できることになると思う。

・行政の役割がキーポイントと感じました。公務員として「トレイルランナー好きの公務員」とつながり、トレランの発展を目指したいと思います。

・NHKはどうしてトレイルレースを厳しく描くのでしょうか。

・トレイルラン経験約1年で、出場大会も1つとまだまだ初心者ではあるのですが、装備の必要性等、改めて認識できました。必携品についてはまだまだ経験も浅いので、推奨品と合わせルールに明記して頂けると助かります。チェックまでは自己責任でいい。

・大会のルール。安全のために必要だと思います。公平に運用していただければ。個人的にはストック使用可の大会が好きです。

・必携品をはじめルールはとても大事だと思います。選手の安全を考えてのルール。トレラン=キケンなスポーツというイメージをなくして、沢山の方にトレランを始めて欲しいし、色々な場所で開催されるようになればいいと思います。

・携行品のチェックをする、しないの論議は非常に参考になりました。なるべくレースではエイドを充実させてもらい、ランナーが身軽で走りやすいレースを企画してくれることを望みます。

・実際に山へ走りに行ったり大会へ出たりはまだ経験が浅いのですが、今後自分が行く山や参加する大会での良い参考になりました。

・必携装備品については、私個人としてはとても助かっています。自己責任と言っても何かあってからでは遅いですからね。

・必携品について。今までチェックは無かったが、カップ上下、ライト、水を必携品にしている大会でライトだけをチェックして、実際の大会ではウェストポーチだけの人や手ぶらの人を数名見た。不公平なので全てチェックした方がいいと思った。

・レースで走るだけでは想定外の状況に対応する「山力」は身につかない！ 鍛えましょう。

## B) 〈魅力とリスクは紙一重〉 安全マナー委員会

・雷、熊、装備リスクを考えることは難しいがいろいろ考えることが必要なことはわかりました。

・グループディスカッション形式だったので色々な人の考え方を聞くことが出来て良かったと思います。また、今更…と思っていた雷や熊への危険回避の話も色々な事例がある為、間違いはあっても、必ず正解があるわけではないことを再認識しました。

・ロードレース界に比べるとはるかにマナーが良いのがトレイルランナーだと思います。

・意見交換会AとBに参加しましたが、Bは経験をもとにしか意見できなかったのが少し発信しにくかったです。

・熊に対する対処、大変勉強になりました。猿に対する対処をお教え頂けると嬉しいです。

・午後Bに出ました。リスクマネジメントというテーマはやってもやり足りないということはなく、何度もいつでも繰り返し、考えて行かなくてはならないと思います。教わることも大事ですが、今日やったように、自ら考えるそのプロセスが大事だと改めて感じましたありがとうございました。

- ・リスク管理は非常に難しいです。
- ・自分のスキルを上げる。
- ・常にリスクについて考える。
- ・山のリスクマネジメントとても参考になりました。
- ・期待していたのと違った新しい知識は得られたのは良かったがこれでは講習会と同じ。せっかく意識の高い人たちが集まっているので現実問題について意見交換をしてくみ上げてほしい。
- ・『魅力とリスクは紙一重』に出ましたが、時間が足りないぐらい有意義な時間でした・
- ・熊は怖いですが登山、トレランのリスクを最小限にしてバンバン山に行こうと思います。WBAも言ってみたいです。
- ・魅力とリスクは紙一重。鎌倉のボランティアには参加してみたいと思いました。グループディスカッションや自身で考えることも楽しかったです。いい経験になりました。
- ・山でのリスクをイメージすることが重要である。自己責任+人を助けられるスキルを身につける。
- ・リスクマネジメントは楽しかったです。自分の身を自分でどう守るのか常に考えていくかが大切。
- ・山でハンターに会う事が多く、誤射されないようにするにはどうすればいいんだろうか？

## **C) 〈トレランは地域活性化に役立つのか？〉地域コミュニケーション委員会**

- ・それぞれの地域で多様な取り組みやイベント・レースを開催されていてとても面白かったです。私自身も伊豆でトレイル文化・山文化を発展させたいと考えており、非常に参考になりました。

・地域活性化はあるが経済効果を求めてはいけない。トレラン人口の増加、プロトレイルランナーの職場として(プロデュース・アドバイザー)大会の意味があるのではないか。

・東京から近くの山も多いのにトレランの大会が少ない。「茨城」、魅力ある県ワースト1位のこの県と組んで、関東からトレランを盛り上げた方が良い！ 使うなら、今がチャンス。

・地域復興としてのコンテンツとして協会の取りくみと方向性について。

・3つの地域活性化の実例の話はとても分かりやすかった。「育てる」ことの重要性和困難さは計り知れないものがある・これからは運営にも参加してみたいと思った。

・各地域の主催者のご苦勞が良く解りました。命令(トップダウン)ではなく「こまっている、どうすれば良い」というアップダウン的手法は会社でも活用したいです。

・イベント開催のためには、トレイルランニング愛好家だけでなく地元を巻き込んだ、オープンなものにしていかないと、継続していけないと感じました。

・トレランを軸とした地域活性化をより発展させるためにはトレランによる価値創造・提供がますます重要になってくると感じた。

・トレイルランニングに隣接する分野の問題点を聞き、トレイルランニングで解決できる事を探る事も必要。例) 地域活性の為のトレラン。環境保全との協力。登山山岳整備との協力。様々な場面でトレイルランナーが活躍できる、社会に役立つ事を、広報していい事も協会の大きな役目だと思っております。学校でもトレランの役割を学生達と考えています。

## **D) 〈トレラン報道のための基礎情報〉 広報・イメージアップ委員会**

・協会の中に広報部を立ち上げ、しっかりとHPでトレランとは・・・トレラン問合せ先として対応すること。

・トレイルランニングの広報戦略にはマスメディアじゃなくSNS等のインターネットメディアの活用を！ 参加者に投稿してもらっただけで十分宣伝になります。まだマスメディアに舵を切るタイミングじゃない。

・協会はとにかく事務局をきちんと立ち上げるべきです。専用電話、問い合わせメール、専任担当。

・トレイルランニングのイメージアップにつながる戦略的なことについてもう少しお話が聞きたかったです。

・個人の発信、イメージアップの企画として→トレイルランナーズ協会主催で清掃活動やトレイル整備を一般ランナーと行い、SNSで発信及び、メディアに取り上げてもらおう働きかける、というのはどうか思いました。又、他のトレラン大会でのそういった活動も一括で発信する側面を協会が担うことができれば情報窓口の一元化、メディアやトレランを知らない人達への分かりやすい入口きっかけづくりができるのではと思いました。

・レースの楽しさをおせっかいなまでに伝えて理解してもらおう。

・レースや競技もいいですが、もっと生活の中に溶け込んだトレランを伝えていくことこそが長期的な成熟に向かうと思います。それなしにメディアで流行らせてもパンクするだろう。

・出だしの内坂さんの「トレイルラン捏造報道」という提起はちょっと大げさな印象でした。全体で考えたらほめている報道も多いと思います。

・トレランの魅力である多様性と自由は大切にしていきたいが、日体協のような組織に所属する事で正しい情報や問題をトレランに興味ない人にも多く伝えることができる。また、トレランでの地域活性や環境保全にも役立つ事（社会に役立つ事）をさらに知らせていく必要がある。今後さらに考える必要がある。